

社会学研究科社会学専攻修士課程 3つのポリシー

項目	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
教育目標	慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会学研究に関する基礎的な研究能力および専門性が求められる職業を担うために必要な能力を養い、研究者、専門性を備えた職業人を育成することを目標とします。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、修士(社会学)の学位を授与します。
資質・能力目標	<p>資質・能力目標（１）：社会学に関する専門的知識の獲得</p> <p>資質・能力目標（２）：質的・量的社会調査に関する調査・分析能力の獲得</p> <p>資質・能力目標（３）：学際的に周辺領域へと接続可能な幅広い知識の運用能力の獲得</p> <p>資質・能力目標（４）：将来にわたって社会的、国際的に貢献できる資質の獲得</p>

項目	教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
教育課程の編成	社会学研究科社会学専攻（修士課程）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、社会学分野、文化人類学・民俗学分野、コミュニケーション／マスコミュニケーション研究分野、社会心理学分野の4分野から構成される教育課程を体系的に編成します。いずれの分野でも社会学研究科委員を中心として講義・演習を行なっています。最新のトピックや関連領域の学問の現在については国内外の著名な研究者を毎年非常勤講師、特別招聘教授による講義科目を設定します。
教育課程の実施	この教育課程の編成のもと、講義、文献講読に基づく討論、フィールドワークを組み込んだ研究主題についての実証データと理論との考察などの教育法を組み合わせることで教育を実施します。
学修成果の評価方法	社会学研究科社会学専攻の教育課程により習得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。
資質・能力目標と教育内容との関係	<p>資質・能力目標（１）：社会学に関する専門的知識の獲得</p> <p>講義科目では、社会学における各分野における研究動向、知識、方法論に関する専門的知識の獲得を目指します。</p> <p>資質・能力目標（２）：質的・量的社会調査に関する調査・分析能力の獲得</p> <p>研究方法論、及び演習科目では、社会学の各分野の研究遂行に必要な社会調査や文献資料の分析に関する知識及び技能の獲得を目指します。</p>

	<p>資質・能力目標（３）：学際的に周辺領域へと接続可能な幅広い知識の運用能力の獲得</p> <p>4分野の境界を超える学際的な研究を促すよう、科目履修の自由度を高く設定し、各分野の連携による幅広い知識とその運用能力の獲得を目指します。</p> <p>資質・能力目標（４）：将来にわたって社会的、国際的に貢献できる資質の獲得</p> <p>各区分野における最新のトピックにアクセスする機会を確保するため、国内外の著名な研究者を招いた講義科目を設置し、最新の研究成果発表や討論を通じて社会的、国際的に貢献できる資質・能力の獲得を目指します。</p>
--	---

項目	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
求める学生像	<p>（１）社会学に関する基礎的な専門に関する学力を有する学生</p> <p>（２）明確な問題意識をもとに主体的に研究に取り組む態度を有する学生</p> <p>（３）学術研究の遂行に適した日本語及び外国語運用能力を有する学生</p> <p>（４）研究の遂行にあたり研究倫理を尊重することができる学生</p> <p>（５）学術研究成果を専門性が求められる職業を通じて広く社会に還元する意欲のある学生</p>
選抜の基本方針	<p>このような入学者を幅広く受け入れるため、一般入試により選抜を実施します。</p> <p>（１）一般入試</p> <p>学際的な特色を有する社会学研究科における社会学専攻において研究活動を遂行するに相応しい語学力（英語）及び社会学の各分野に関する基礎的知識とその構成力、表現力を評価するために筆記試験を一次試験として実施します。修士課程における研究に関する問題意識、研究計画、研究遂行能力について確認するための口述試験を二次試験として実施します。</p>